

皆満寺通信

第13号

法語

他力と言うは、如来の本願力なり
親鸞聖人「教行信証・行巻」

「他力」は、だれのどんな「力」なのかという問いに宗祖は「他力と言うは、如来の本願力なり」と明確にしてください。 「他力」をたのむというのは、依頼ではなく、「まかせる」ことであります。信じていなければまかせることはできません。親鸞聖人は、その信心も「如来より賜りたる信心」と抑えておられます。

「火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」とあるように、真実たりえない私の身の上に信心を頂くことがどういうことなのかも教えてください。

前住職

日帰りバスで行くご本山納骨ツアーについて

10月16日(水)

朝6時30分発

参加費用 6,000円(税込み)

※バス代と、ご本山でのお斎(精進料理・昼食)です。

別途、収骨の礼金が必要となります。

定員 40名

※一世帯当たりの申込制限は設けません。

申込期限 9月30日(月)

※定員になり次第、締め切ります

第12号でお知らせいたしましたバスで行く、ご本山への収骨団体参拝のお知らせです。ご本山でのお収骨と、阿弥陀堂のご修復現場視察、大谷祖廟(親鸞聖人の墓所)参拝を予定しています。大谷祖廟ではご要望があれば、参拝だけでなく、お納骨も可能です。この機会に是非如何でしょうか。お申し込みお待ちしております。

通知が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

ご希望の方はお寺にてお申し込み下さい。

※真宗本廟収骨は相続講志12万円で事前にお手続きが必要です。収骨できるご遺骨の量に制限がございますが、お預かりしたお骨を桐箱に収め直し、個別でのお取り扱いです。

※大谷祖廟は礼金2万円以上からで可能ですが、収骨方法が異なり、お預かりした後、親鸞聖人の廟所に合葬されます。合葬の時期等は公表されていないので不明です。こちらはお手続きの方法も異なり、当日、現地でのお手続きとなります。

※詳細はお寺までお問い合わせ下さい。

彼岸会法要のご案内

9月23日(月)午前10時~正午まで

お彼岸のお中日、10時から彼岸会法要をお勤めいたします。

お彼岸といえば何を連想されるでしょうか。一般的にはご先祖のお墓参りに、おはぎに、彼岸花くらいでしょうか？果たして今年はいつ咲くコトやら…お寺もお盆の慌ただしさもどこ吹く風かといった感じですが、みなさまはどのようにお過ごしになりますか？

彼岸とは阿弥陀様の浄土を指します。浄土から私たちのいる岸(此岸)の在り方を照らされ、私たちは自らの生き方を問うのです。その問いに耳を傾けて自分の生活を振り返るのが、お彼岸なのではないでしょうか。

※前住職の法話を予定しています。

納骨総経法要のご案内

10月12日(土)午前10時～正午まで
法話 伊藤教信師(名古屋市 慈光寺若院)

お寺でお骨をお預かりしているご門徒を対象に、一年に一回総経をお勤めしています。様々な想いでお寺にお骨を預けていただいたことと思いますが、お骨を寺に預けることの意味、お骨を通して教えに出会うということはどういうことなのでしょう。

分かりきつとるわと答えを出し、手放そうとしないのではなく、そのことをご縁に仏法を聴く。そして、仏法に聞こえるまで聴いていくこと、そういうことを大切に受け止めてきたのが私たち、真宗門徒だと思います。

お骨をご縁に、新たにご聴聞の輪に加わっていただければ幸いです。

改めて、該当のご門徒にはご連絡いたします。

書いて学ぶ親鸞の言葉

第2弾告知

和讃 書写の会

来年春からスタート

書き取りノートを用いて開催してきた正信偈書写の会、いよいよあと2回で終了になります。お勤めとして読むだけと違い、書いて、声に出して読んでみると、違う味わいがありました。これでおしまいではもったいないので、書写の会企画第2弾開催決定です。

第2弾は和讃の書き取りです。親鸞聖人は浄土和讃、高僧和讃、正像末和讃という3つのタイトルで和讃を編纂されています。それぞれ百二十首前後、合計約三百五十首ものご和讃を詠まれました。日頃のお勤めに用いられ、親しまれている「弥陀成仏のこのかたは」ではじまる6首のご和讃や、恩徳讃として報恩講で歌われている「如来大悲の恩徳は」はその代表的なものです。それらを含む、代表的なものを数首、書写ノートを用いて書き取っていきましょうと思います。

静かにじっくり書く、そんな日頃少なくなっている時間を過ごすだけでも良いものです。また、先述していますが、書き取って声に出すことで味わうことができるのが良いと思います。如何でしょうか？

開催日時等は未定ですが、年明け、春先から始めた

いと思っています。準備が整い次第お知らせいたします。

※正信偈書写の会の総仕上げのご本山への参拝、研修会への参加を5月～6月頃に予定しています。こちらへのご参加も頂けますので、ご検討下さい。

詳細はお寺までお尋ね下さい。

被災者支援のご報告

福島県の保育園へ飲料水を届けました

昨年に引き続き、今年も本堂に救援金箱の設置を継続し、宗派としての支援事業の一環である福島県下への飲料水支援を、名古屋教区第二組を通して行いました。

当寺として21,178円、二組全体で381,244円の救援金を集め、1リットルのミネラルウォーター1,920本を福島県下の保育園へ支援することができました。ご賛同下さいました皆様の想いに厚く御礼申し上げます。

また、年末には福島県、二本松市の保育園に通う園児とそのご家族が短期保養に名古屋にやってきます。その保養事業は、名古屋教区の寺院と僧侶をはじめとする有志で受け入れています。私(住職)も微力ながら関わらせていただいていることから、そちらへもお寺での子ども会で頂いた参加費等(23,116円)を寄付させて頂きました。ご協力いただきまして有り難うございました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

福島の問題はどんどん聞こえなくなってきました。まるで、わざと他の話題で覆い隠しているかのようです。先日も福島から自主避難をされている方の苦悩に君ならどう応えるかと問われ、言葉が出てきませんでした。不必要に騒ぎ立ててコトを大きくしているのはおまえらだと、ののしられ、陰口をたたかれるのだと…保養に行くことすら、正直に言い出せない現実があるのだということを知る度に、新たな差別がいわば、被害者同士で生まれ、人と人が引き裂かれていく現実に仏教はどう応えていけるのか？

正直分かりませんが、少なくとも聴き続け、見続けることで、見えてくる、聞こえてくることもあると思います。「我今、見聞し、受持することを得たり。願わくば如来の眞実義を解したてまつらん。」

三帰依文のことばです。目を開き、耳を傾け続けたいものです。

サマー寺子屋

親子でそばうちのご報告

去る8月24日(土)、お寺の子ども会、サマー寺子屋親子でそばうち！を開催しました。

本年度2回目となった夏休み企画！今年は約30名の親子が参加してくれました。内容はそば打ちと手作りのおもちゃ(色画用紙と新聞紙で作るフリスビー)で遊ぼう！です。



本堂で思いっきり遊んでくれました

何でも売っていて、買える時代、おもちゃなんて、薬局でおまけでタダで買えます。作って遊んだり、直して遊んだり、工夫すれば、なんか楽しい。ごはんも簡単にコンビニで美味しいものが食べられる時代、食べるまでにはこんなに手間が掛かること、簡単には食べられないこと、そして、一生懸命、一緒に作ったものがとっても美味しい。そんなことを感じて買えたらと、試行錯誤の2年目の寺子屋を開催しました。

そばうちは昨年同様、ボランティアのそば打ち同好会「ゆめすけ」によるほぼマンツーマンのフルサポートを頂いて、ホントに美味しく、頂きました。フリスビーも良く飛びました。こどももおとなもみんなが笑顔でした。こどもたちと若いおとうさん、おかあさんにとって「お寺って良いかも」と思って買えていたら嬉しいですね。来年もまた、楽しみです。



お詫び

夏休みお勤めの稽古について

本年は準備不足で開催できませんでした。来年こそ、宿題会を兼ねて開催したいと思います。

事務所工事についてのお知らせ

予定よりも遅くなりましたが、山門脇の事務所(兼寺務所)工事が漸く終わります。お彼岸頃に引き渡しの予定です。

溢れていた法衣、様々な教化資料や会議資料の整理ができそうです。少人数のミーティングも出来るので、色々と捗りそうです。

これで夜中の仕事が減ればいいのですが…しかし、仕事をする時間が法務後になるのは変わらないので、それは変わらないかな…。

長らく、境内が工事現場のために、皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。



平和の鐘とお盆 絵手紙展開催のご報告

去る8月6日(火)武豊9条の会主催の「平和の鐘」が催されました。この催しで、当寺の御門徒である田島道隆氏が講師を務める絵手紙教室の作品が展示されました。

この作品には絵手紙だけではなく、畳一畳ほどの用紙に描かれた作品も数点ありました。その中には、「仏説観無量寿経・下巻」で説かれる「兵戈無用」と描かれている作品も含まれていました。

このお経の言葉は、現代を生きる私たちが最も知ら

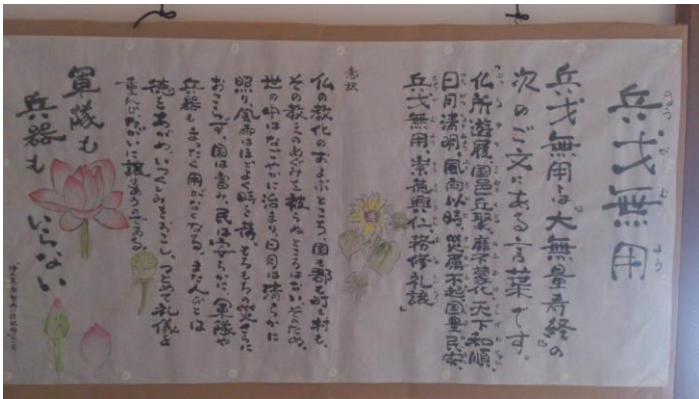
なければならぬお釈迦様の遺した言葉といっても過言ではないのではないのでしょうか。

そこにはこんなことが説かれています。

「お釈迦様が法を説いて歩いたところでは、人々は争うことなく、平和に、幸せに暮らすことが出来ていた。その国の兵隊も武器も用をなさなくなった。」と。

この言葉を少しでも本堂に掲示させていただいたかったので、無理を言ってお盆が終わるまで本堂に展示させていただきました。

お盆にお寺にお越しになってご覧になったご門徒も多いのではないのでしょうか？今年のお盆は前住職に代わって僕がご法話をさせていただきました。僕の話も補って来てあまりあるものでした。



仏所遊履…天下和順…国豊民安 兵戈無用

前住の独り言

これは、随分前の「同朋新聞」に載ったものなので、既にお読みになった方もあろうかと思いますが、敢えて多くの方に読んで頂きたいので掲載いたしました。

「本当に尊いこと（本尊）」

真城義磨

「本尊」とは、文字通り「本当に尊いということですから」そのことに合掌し頭を下げて礼拝するのです。

私の人生に於いて私は何をご本尊として生きているのでしょうか。私が本当に頭を下げるべき、私の人生にとって本当に尊いこととは何なのだろうか。私は何を大事にしながら生きているのか。生きる意味や価値を何処に見出そうとしているのか。礼拝する、つまり謙虚になって頭を下げることで、自分が大事にすること

をきちんと知らず、たよりにならぬものをたよりにして目の前の小事に振り回されていることが露わになります。私たちは人生で様々な出来事に出遭います。そのことに振り回されながら生きている私たちにとって、どんな状況になっても生きていける支えは何なのか、何がなかったら生きていけないのか。第一に私の生き方は生きることを下支えをしてくれているような「何か」大事にする生き方があるのか、そういったことに目が向いていないのではないのでしょうか。

そういう意味で、現代は「本尊喪失」の時代と云えるのです。本尊を喪失するということは、全てを、人知（人間の知恵）で考え判断し、選びながら進んでいくことです。

人間はその智慧によって、豊かな文明を築き上げたという想いもあり、とにかく智慧こそが最重要だとし、智慧を尽くしてきました。しかし、人間の知恵と努力で何とかなると思い、よかれと進むのですが、実際はしばらくすると「こんなはずではなかった」ということの繰り返しになっていませんか。人間の智慧は素晴らしい能力ですが、本当のことは見抜くことも行く末を見通すこともできません。だから行き詰まるのです。

そのようにしか生きられない私たちであると謙虚になって、ありのままの自分をご本尊の前に置き、そして合掌して頭を下げるのは、本当のことが知りたい、つまりは本当に安心していきいきと生きたいということでしょう。

編集後記

▼宗派の年度は7月始まりで6月に終わる。宗派の地方議会が8月に開催されるので、末端である組が始動するのは9月である。任期最後の定例の組会を先日無事に終えた。これで漸く寺に本腰を入れられそうである。特にこの一年はお寺が疎かになったと言わざるを得ない。気がつけばあっという間にお彼岸で、報恩講が間近に迫ってきた。待ったなしだ。本年もご門徒の皆様と一緒に報恩講を勤めていきたい所存です。宜しく願いいたします。▼次号報恩講特集は来月発行。やられてはいますが、倍返しのつもりで頑張ります。

「皆満寺通信」 第13号 2013年9月16日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail info@kaimanji.or.jp